

第8回早稲田大学国分寺校友会・総会 特集 第2回三多摩地域稲門会連合懇親会



出席者名簿

昭和五十五年六月十四日 第八回早稲田大学国分寺校友会総会・第二回三多摩地域稲門会連合懇親会出席者は左の通り。
(順不同 敬称略)

国分寺校友会

安食得郎・阿部功・天野ヨシ子・板橋恒二・梅田浩正・大森信雄・加藤喜雄・笠原正成・黒川清知・栗山佳三・工藤重忠・小林好寛・今野仁・塩谷信雄・須田茂雄・砂村峰郎・高橋均・恒任民男・中藤俊一・永田逸郎・永元作一・林久仁於・秀永和久・藤田豊・堀田博靖・森田正紀・山口勉・横川純子・若月啓功・新名敬一・水谷昭三

三多摩地域稲門会連合会

八王子早稲田会 加藤政利・片桐進・浅野政彦・沢渡勝・松坂嘉男・平井淳夫・斉藤芳孝・山崎公義

立川稲門会 砂川昌平・八尋磨也子・高橋芳樹・武藤重郎・高田勝政・鷺海景良
府中校友会 松本三郎・吉誠・中村賢治
小金井稲門会 稲垣信雄・前島亮三・伊藤豊

国立校友会 青柳賢二・宮田唯男・萩尾昇・桜山隆一・長沼昭夫

日野稲門会 松本嘉一・土方武彦・青谷和夫・山田裕四・清水隆・天野義雄・千田吉郎

多摩市 高取渡・新田侃治・武山浩七
調布市 元木勇

来賓 中村高一・安倍省吾
大学側 木村時夫教授・三木一郎募金局長

早稲田大学国分寺校友会 第八回総会 報告

早稲田大学国分寺校友会・第八回総会を昭和五十五年六月十四日午後四時三十分より、国分寺パークレーン大会議室に於いて開催。総会に先立って中藤会長・板橋副会長の挨拶があり、総会議長に恒任民男君を選出、議事に入る。梅田幹事長より昭和五十四年五月より五十五年四月までの一年間の校友会活動状況を報告後板橋副会長より左の動議あり。

板橋副会長「五月の金曜サロンの際に梅田幹事長より、健康上の都合で幹事長を辞任したい旨申し出がありました。それを受けて、本年は役員改選期でもありませんので幹事会を開いて討議の結果、不意のことではあります。健康上ということでは無理をお願いするわけにもゆかず、国分寺校友会としては幹事長を須田茂雄君にお願いすることにしたい。しかし、従来よりのいきさつもあり、大学当局との諸連絡及び三多摩地域連合稲門会に於いては、どうしても梅田君にお願いしなければならぬと思うので、会則の一部を変更し、新たに代表幹事という役職名を設定し、梅田浩正君に就任して頂き、対外的にお骨折りを願うことにしたい。

出席者全員異議なく可決。

続いて恒任議長より評議員の自発的申し出をうながす発言あり。

恒任議長「評議員の制度について、現在本会の評議員は長井君、柳生君、大森君と



私の四名ということになっておりますが、評議員というのは会の運営を若い方々にお願いし、六十才以上の会員で、本会のために何か手伝ってやろうとおっしゃる方が申し出によって構成されるもので、運営その他若い幹事さんの御意見番なりアシスタントなりということなので、盛り立てる源動力ともなることなので、有資格の方はどしどしお申し出で頂いてお力になって頂きたい。

それでは新幹事長になられた須田君より一言挨拶して頂きます。

須田「七年前、不意に早稲田大学国分寺校友会のご案内を受け取り、立派に組織として出来上がった会に出席させて頂きましてから、この第八回総会を開くまで、梅田さんの御苦労は大変なものだったと思います。こうして一度組織が出来上がってしまえば、幹事の皆さんが手分けしてやって下さいますので、総会にしましても忘年会、新年会等の会合にしましても比較的スムーズに行えるのかと思います。こうして縁あって同じ学校に学び、同一市内に居を構えるようになりました関係から、何かとお力になり合ひ、楽しい集団としての当会がより一層盛えますよう皆様の御協力を心からお願ひ申し上げます。

以上で総会を終了。第二部講演会に移り、三多摩稲門会の方々と共に木村時夫先生の講演「大隈老侯の業績とその史的評価」(要旨四頁に掲載)を拝聴。終って第三部連合懇親会のための会場作りを全員で改装。塩谷信雄国分寺市長の音頭で乾盃。懇親会に入った。

早稲田大学国分寺校友会 第二回三多摩地域稲門会 連合懇親会

三多摩地域稲門会連合懇親会は今回の衆参選挙のおおりに受けまして、ご出席の方が思いのほか少なかったように思われました。それでも御参集の方々は在学当時のことなどを胸に大いに語り合って頂けました。いつものことながら、会の終了に先立っての肩を組んでの校歌斉唱には胸のつまる思いがいたします。





次回の三多摩地域連合懇親会の主催を
 八王子早稲田会にお願いいたしました。
 八王子早稲田会では来春に、高尾山の別
 院で大会合を予定しております。

一人物に対する評価は棺を覆うて定まるといわれるが、大隈老侯の業績に對するそれは、今日といえども一定していない。とくに老侯の外交上の二大事業ともいふべき、条約改正問題と對華二十一カ条問題において然りである。この両問題には種々複雑な事情が絡んでおるのであって、その責めを老侯一人に負わせることは不当である。

とす、いく多の事業に示された、老侯のすぐれた文明觀と近代主義とはなればこそこれを否定することができない。

明治五年の鐵道の開設、同六年の國家子算公表制の創始、十三年の統計院（今日の會計検査院）の設置、政党政治の推進等は、その最たるものであり、それは守田分子との争い、藩閥勢力との抗争のうちに老侯が実現したもので、老侯の偉大さを物語るものである。

東京専門学校の創設は野に下った老

大隈老侯の業績と

その史的評価

早稲田大学教授
社会科学研究所長

木村時夫



侯が自己勢力の拡大を狙った、いわゆる謀反人の養成所として政府から警戒され、種々な弾圧と干渉を蒙った。しかし、老侯の狙いはそんな低い次元にはなかった。それは政治、経済、法律の他に理学部を設置していたことでも分る。しかし、早稲田大学が標榜する「学問の独立」は今日といえども、政府権力からの独立という意味にのみ解されている。しかし、専門学校開設の時宣言された「学問の独立」は西歐の学問からの独立、日本的学問の独立であって、そのためにすべての講義を日本語をもって行うということであった。後には東京大学の法学部まで、早稲田の方式に倣ったので、そこに老侯の先見の明があったのである。ちなみに老侯が初めて専門学校に姿を現わし、親しく学生に語りかけるのは、創立十五周年記念の祝典が行われた日のことである。

今日「開かれた大学」ということがいわれるが、講義録による通信教育を行い、校外生制度を始め、中国人を主とするアジア人に留学制度を始めたのも老侯であるし、大日本文明協會を創設し、西歐の新知識の民間への普及を計ったのも老侯である。老侯の眼はいつも民衆に向けられていた。

政治が民衆に立脚し、民衆のために行われねばならないのは当然のことで、老侯が政党政治の推進に全力を尽したのもそのためである。

藩閥政治家は老侯の民間における信

望を利用し、難局の打開を常に老侯に求め、解決の兆しを見ると、種々画策して老侯を政權の座から退けた。老侯の業績に對する毀譽褒貶の原因の大半はここにある。

しかし、老侯の国民葬に示された民衆の心からなる哀悼の情は、老侯が民衆を欺かず、民衆と共に生きた何よりの証拠である。

近く創立一〇〇周年を迎える早稲田大学は老侯のすぐれた文明觀と近代主義を継承し、老侯が志して、なお実現し得なかつた幾多の点を実現し、発展させたいものである。

以上は過般の校友会・三多摩連合懇親会に於ける講演の主意を特にお願ひして推敲されたものであることを銘記して謝意とする。

筆者は第一高等学院をへて昭和十九年早稲田大学文学部史学科を卒業、兵役を経て復員後早稲田大学で日本近代史を専攻。巨峰、津田左右吉博士門下晩年の逸才として令名高く、主著は「力と外交」自由アジア社、「日本ナショナリズム史論」早大出版部、「日本の史潮」早大出版部、「日本ナショナリズム研究」前野書店等がある。

(梅田浩正)

土岐善麿と国分寺

「十分に生きたから満足しているよ」十五日未明、土岐さんはそういつて永遠の眠りについたら。長男健児氏をはじめ、子どもや孫たち二十数人が最後をみとった。あと二ヵ月足らず、六月八日には、この家族たちで九十五歳の誕生パーティーが開かれるはずであった。」

昭和五十五年四月十五日付朝日新聞の夕刊にのった記事である。

土岐善麿は明治四十一年、早大英文科を卒業後、読売、朝日と新聞社で活躍し、朝日では昭和十五年、定年で退社するまで、社会、学芸、調査の各部長を経て、論説委員をやっていた。戦後は二十六年から五ヵ年間、都立日比谷図書館長をやり、また、国語審議会会長等を歴任、戦後の日本文化の確立のために尽力された。土岐善麿は学生時代に金子薫園、窪田空穂に師事して歌作りの道を深め、早大出身の歌人土岐善麿として我々に親しみを与えている。

〔文学博士・芸術院会員・著書「田安宗武」(新修京極為兼)「土岐善麿歌集」「土岐善麿歌論歌話」(新釈 杜甫)「杜甫草堂記」(斜面送春記)「歌舞新曲選」など〕

その土岐善麿を国分寺に結びつけたきっかけは、四月の金曜サロンの席上のことである。田中康義君や若月啓功君らとの会話の中で、「たしか僕等の卒業した国分寺第一小学校の校歌は土岐善麿先生の作詩でした」ということから、国分寺には他にも土岐先生に詩を書いてもらっている学校があるはずだと話された。その話に興味を持って、その後、市役所へ行ったついで

に教育委員会の方に問い合わせたところ、中村春男氏より国分寺市立第一小学校、第二小学校、第三小学校、第四小学校、市立第一中学校、第二中学校の六校の校歌を土岐先生が作られたことがわかり、その校歌をコピーして頂くことができた。

当然、何故こんなにも多くの校歌を? という疑問が生じたが、それはすぐに解決した。

先づ、昭和二十七年九月に創立十五周年を記念して第一小学校の校歌を制定しようという動きが出て、当時の国分寺町長 中藤俊一氏(当校友会会長・現国分寺市農協理事長・昭和二十六年より三十年までの国分寺町長)《市制は三十九年十一月》は国分寺町内に居住する作曲家信時潔先生と相談して、作詩を土岐善麿先生に依頼することとなり、中藤町長みづから土岐先生を訪問したことに始まる。

土岐・信時コンビは国分寺以外にも幾多の校歌を手がけられておられるが、このコンビの生れたことにつき信時次郎氏(故潔先生の御令息・本多四丁目十三番)に電話でお伺いした。

信時潔先生は若い頃の土岐善麿先生のローマ字の詩集(土岐善麿は明治末期から田中館愛橘の日本ローマ字会に参加)を愛読し、それを作曲したことから、以来両先生の間に親交が生まれたらしい。信時先生は御自分の曲想に一番合った詩として土岐先生を、土岐先生は御自分の詩を本当に生かしてくれる信時先生を、ということも多く

我々早大の先輩の歌が、こうしてこの市の若い人達に唄い継がれ、やがて早大を出て、こうして楽しく語り合えることに私は快哉を叫びたい。土岐善麿・信時潔両先生のご冥福を心からお祈りして。

(須田茂雄記)

第一小学校校歌

- 一、丘より丘に さくらさき 谷より谷へ 草もえて むさしの台地 うららかに さえずる鳥も むつまじや
- 二、けやきは 芽ぶく森の道 ちちぶの山の かすむ日も 希望の空に うかが富士 自由のかげに とぶ雲よ
- 三、歴史に名ある 国分寺 まなべば 時も新しく 友情清く わくところ 第一小学 みな こぞれ

第二小学校校歌

- 一、桜の春も 紅葉の秋も 友情深し みどりの校舎 新たに開きし 歴史の上に 時代を知りゆく このたのしき われらは立てり 健やかに
- 二、けやきの若葉 かがやく雲に 希望をのせて 大地はひろし 富士あり秩父のかすめるかなた 正しきもののみ ちからなりて

第三小学校校歌

- 一、むさし野に われら育てば 富士のみね はるかに仰ぎ 松けやき かの葉かげに 花つみて ころも清し
- 二、むつまじく われら励めば 得たるもの すべては実り しみずわく 大地ゆたかに ひらける 世界はひろし
- 三、むさし野に われら競いて 新たなる 社会の人と ひとすじに つよくゆくべし 国分寺第三小学校

第四小学校校歌

- 一、むさしのみどりに 風わたりに 街道あかるし 校舎の窓 ちちぶの連山 穂麦に晴れて しみずは小川と 流るるところ くりの花房 富士高し
- 二、まなべば 日に夜に身も楽しく さくらの すすきの春また秋 歴史に社会に 昔と今を 正しく知りゆく よろこびもちて

社会は呼ぶよ 野の風に

むさしの ここに国分寺
われらは 第二小学校

共にいそしむ われらあり

われらの郷土国分寺
こそれり第四小学校

第一中学校校歌

一、武蔵野の路 ひろくつづき

林の風 あかるし若葉

真理をもとめて わけゆくところ

ひともとあり むらさきぐさ

みなこそれ 自主のところに

二、さくら花さき 麦は青く

月澄みゆき 照りそうもみじ

春秋たがえぬ 自然のちから

すこやかなり 正しきもの

雪消えず 富士はそびえて

三、北多摩の町 われら若く

歴史を負い 勤めん常に

友情語れば 青春楽し

希望の雲 かがやくとき

国分寺中学 榮あれ

第二中学校校歌

一、光はまさに東より

町空高く あけゆく時

希望の斜面 草もふて

若葉のそよぎ 影ふかし

春よ、夏よ、 あふれる力よ

ひとしく競え、 すこやかに

二、くぬぎのみどり 花さきて

ちちぶも富士も 風晴れたり

むさしのひろく 開けては

社会の道も 新たなり

秋よ、冬よ、 澄み行くころよ

友情かたく、 みのるべし

第二中学 われらあり

あゝ国分寺 歴史を誇れ

昭和五十五年 忘年会のお知らせ

今年もおしつまりました。昭和五十五年の忘年会を左記要領にて行います。多数のご参加を期待しております。

日時 十二月一日(月)

午後六時より

場所 国分寺駅北口『室町』

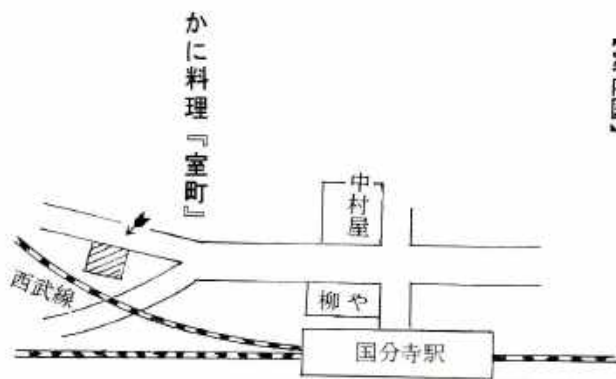
会費 七、〇〇〇円

忘年会は例年の通り、楽しい福引とユーモア溢れるオークションを行います。和気あいあいの会として五十五年を締めくくりたいと存じます。
なお、オークションでの出品をお願い致します。

同封のハガキにて出・欠の御通知を十一月二十五日までに事務局に到着するようお願いいたします。

なお、忘年会に欠席の方も、名簿作成の資料と致しますので必ず御返送下さいますようお願い申し上げます。

【案内図】



かに料理『室町』

国分寺市本町三ノ四ノ五
電話〇四二三(21)二二二九
〇四二三(22)二八八九

新名簿発行についてのお願い

今回、大学一〇〇年記念事業募金について大学側より国分寺市在住の方の名簿が送られて参りました。約八〇〇名を越す方が国分寺に住んでおられることを知り、かつ、五十三年度に発行致しました名簿が移転及び物故された方々によって大幅な変更を余儀なくされましたので、五十六年の春には新しい名簿を皆様のお手許にお届け致したいと存じます。つきましては、左のお願いを是非ともお聞きとだけご協力下さるようお願い致します。

① 会員の方をA会員とB会員に別けさせていただきます。年会費(一、五〇〇円)をお払込み頂けた方はA会員として諸行事に対するご通知を差し上げます。また、何かのお都合で会費をお払込み頂けません方は、B会員として、会報と名簿のみを送らせて頂きます。全会員がA会員になって頂き度くお願い申し上げます。

② 名簿は一、〇〇〇部発行の予定ですが、費用としては三〇万円位と考えますので、広告費で発行費を助けたと思いますから、広告掲載をお願い出来る方は事務局まで。

③ 細かく調べてご通知を出した筈ですが、手違いで漏らした方もあるかと存じます。お知り合いの方にお知らせ下さり、事務局まで一報下さい。

創立100周年記念事業募金のお願い

早稲田大学は昭和57年をもって創立100周年を迎えます。

戦後、新制大学として発足しましてから30年を経過したことになりますが、この間、昭和37年の創立80周年を転機として、経済の飛躍的な発展にそって研究・教育体制の拡充に努力してまいりました。今日、わが国は世界的な規模での価値観の転換期を前にし、新たな対応にせまられております。80年代は不透明な時代とさえいわれております。時代の流れが大きく変わりつつあるとき、早稲田大学に与えられた課題は、広い視野、いかなる困難も克服できる決断力と柔軟性をもって、このきびしい局面に挑戦できる人物をより多く育成することであります。そのためには歴史の現実をふまえ、21世紀を展望しつつ新たな展開をはからねばなりません。

そこで、早稲田大学は創立100周年を機として、伝統の継受とそのあり方を検討し、数年にわたって構想してまいりました記念事業を実施することになりました。

それは、新キャンパスに展開する新しい教育体系と研究所を軸としたマスター・プランで、既存の学部の教育・研究環境の質的充実と緊密に結びついたものであります。これによって、現キャンパスの学生数の一部削減など狭隘をきわめております現状の再整備を行い、高等教育機関としての新制大学の制度と理念を生かし、学生が自己の能力を最大限に発揮できる環境と条件を実現します。新キャンパスにおける新教育体系は、既存の学部・研究機関と協働することによって相互に刺激を与え、新風を吹きこむことのできる場となります。

国際交流センターは、来るべき国際化に対応するものですが、このセンターを核として外国人研究者や国内外の学生との交流を深め、国際感覚をより豊かにすることに資したいと存じます。

総合学術情報センターは、図書館と情報処理の機能を高め、共同利用研究施設を併置することによって学内外に開かれたセンターとして機能します。また現存の図書館を資料館として一般にも開放したいと思ひます。

これらの事業は、関連事業を含めると総額300億円をこす、一私学の計画としてはきわめて大規模なものです。しかも所要資金200億円は募金に仰がねばなりません。このうち100億円を法人企業にお願いしたいと思ひます。現下の諸情勢に照しますとき、よういにご厚意にあまえる金額でないことは十分承知しておりますが、あえて実施に踏み切りましたのは、社会的に多大な意義があると確信したからです。一時しのぎの安易な道でなく、苦難の道を選びましたのは、既存の教育・研究条件の整備充実と新しい教育体系を通じて、すぐれた人材を世に送り出すことこそが責務であると痛感したからにほかなりません。

皆様におかれましては、この記念事業に託した本学の悲願と熱情をおくみとりいただき、格別のご理解とご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

昭和55年3月

早稲田大学総長

清水 司

創立100周年記念事業募金委員会委員長

井深 大

創立100周年記念事業募金実行委員会委員長

前総長

村井 資 長

早稲田大学国分寺校友会会長

中 後 俊 一

募金についての手続及び書類等は事務局にもあります。

お知らせします

☆中島正信先生の思い出

九月十九日の金曜サロンで『中島正信先生の思い出』と題して飯島嘉一郎氏（岸塚器械工業常任監査役・S26商学部卒）の講演がありました。人間・中島正信を解剖し、戦後、英才教育に走りながら大学の中ではもう稀少価値に等しい早稲田マン中島正信先生を、教え子の一人としてというよりは、親父であり、兄貴であるという親しみをこめて語られました。

なお、非売品『早稲田の魂—中島正信』という立派な本を寄贈されました。（布張上製、B5判二〇〇頁）。内容は中島正信先生を慕う方々の文章が切々と胸を打つ本です。貸出しますので事務局までお申し込み下さい。

☆事務局開設通知

国分寺校友会に関する諸事務の取扱い場所としての事務局を左の通り設置致しました。ご連絡はどうぞ左記へ

東元町一丁目十七番十六 須田茂雄方

早稲田大学国分寺校友会事務局

電話〇四二三（二二）四九五三

なお、校友会本部は従前通りです。

◎ 十月十七日 幹事会招集に対し不参のおおび 副会長 工藤重忠氏（亜細亜大学教授）

十七日のご案内、出席のつもりでしたが東都大学リーグで亜細亜大が優勝し、その祝賀会があり、私は亜大の野球部長であり、連盟の常任理事でもある関係上どうしても抜けられず失礼致しました。よろしくお願ひします。

◎ 内山鶴氏、ゾラの「居酒屋」を演出

劇団民芸の演出家、内山鶴氏が、エミール・ゾラの「居酒屋」をひききけて、十二月十三日〜二十七日まで日本橋 三越劇場

出演は奈良岡朋子・梅野泰靖・山本勝・青木道子・塩屋洋子・小野田巧他
入場料三、〇〇〇円 全席指定
問い合わせは 民芸〇三（四〇）一五一一
なお、来年には中国劇作界の第一人者曾禹の「日の出」を演出します。

お願ひします

お願ひといえは、もう会費のことです。何分にも資本主義経済体制のもとにありましては、経済が先行するもので、うまく運営して行きますが、元手がなければ困ります。どうか年会費（一、五〇〇円）を左記方法でお送り下さい

郵便振替口座 〇〇座番号

東京・一八八七五五

第一勧銀国分寺支店・普通預金口座

二七五—一三二五—一八八

多摩中央信用金庫・普通預金口座
〇一三六二〇六一四
送り先は 早稲田大学国分寺校友会です
現金送金の場合は
東元町一ノ十七ノ十六 須田茂雄
にお願ひします。

会費お払込み頂いた方には領収証を発行致します。お払込み後一ヵ月以内に領収証が届きません場合は事務局までご一報下さい。

須田茂雄とはこんな男

この度、不意に幹事長という役を拝命してしまつて、ちよつと困っています。しかし、お引き受けしたからは出来るだけのことはして見たいと思います。そこで、これからは何かとお近付き頂くために自己紹介をさせていただきます。

生れは東京・芝、桜川町一番地の裏長屋の代々左官職人の次男坊。中学は京橋商業（現・都立芝商業高校）。十六年に専門部で経済学部へ進学。酒枝義旗助教授についてゴットル経済学を専攻、経済学士の称号を受けたが、おふくろ曰く「お前のは不経済学士だ」と、十八年九月繰上げ卒業と同時に兵役へ、どうせのことなら薬をしてや

ら、飛行機が無くなつて、終戦除隊。東京へ舞いもどつたら、親も家も無い。六無斎とシャレのめして新聞、雑誌の編集をやつたり、出版社を作つたりしたが約十年ですつてんでん。さらばとサラリーマンに転向、

活字を読むのが好きで、手あたり次第読んでいたうちに、会社の評判は、誤字、脱字、落丁、乱丁、出典不明の百科辞典と尊敬？され。十年前にサラリーマンもやめて、職人の子は職人でと目下印刷職人（写植）として生計をたててます。

五代目の江戸ッ子を自認、ペランメー背越しのゼニが持てるかつて勇んでいたら、ゼニに愛憎をつかさされ、思想・生活態度は右往左往派。オクチョコチョイで、鼻柱は強いが気が弱く、根っからのリベラリストで喧嘩相手は専ら自分より力のある人。

こんな私でよかつたらとお引受けした幹事長。早くバトンを渡すべく物色しています。

◎ 初めてこの会報を受取られる方に。ご連絡がつかなくて、失礼いたしました。おわびします。今後よろしくお願ひします。

◎ 校友の中に、趣味として、画を描く方をなされる人。陶器作りを楽しむ者等々おられますので、一度、国分寺の町中で大合同発表会をしたいと考えております。私はこんなことをしているということをお知らせ下さい。

（編集部）

早稲田大学国分寺校友会・会報 第十一号

昭和五五年十一月一〇 発行

発行 早稲田大学国分寺校友会

電話 〇四二三（二二）四九五三

編集 広報部 須田 茂雄

黒川 清知



会
員
だ
よ
り